

◆2024年度 中学入試 第1回【国語】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	90.5%	93.4%	教育漢字の知識・理解を確認	概ねよく書けていた。⑥「徒党を組む」はなじみがない受験生が多かった。
	②	93.9%	95.9%		
	③	98.8%	99.3%		
	④	88.7%	91.4%		
	⑤	79.5%	83.8%		
	⑥	60.3%	74.5%		
	⑦	96.3%	98.3%		
	⑧	97.5%	99.7%		
二	問一 A	66.8%	76.6%	「烈火の如く」の意味	<p>「大人」と「大人になりきれていない人」を肉体的な成熟ではない観点から捉えた本文をきちんと読めたかを問うた。客観タイプ（選択肢）の設問は、その長さに惑わされることなく多くの受験生が通過できた。</p> <p>【問六】本文で対比的に展開される項目について、それぞれ対応する表現をひもづける力を図ることを狙った設問。「既存の枠組みを超える」といったニュアンスを汲み取って表現できるかどうかのポイント。「自由で斬新な発想」が想定する解答。</p> <p>【問七】複数テキストから正しく情報を掴み取り、それを表現することができるかどうかを問うた設問。古語「おとなし（大人し）」の持つ複数の意味を本文と古語辞典から探るが、想定する解答の「分別のある」にまで思いの至った受験生は少なかった。</p>
	問一 B	78.3%	84.5%	「尻馬に乗る」の意味	
	問二	47.6%	58.8%	「大人でない、と対比される人」の言い換え	
	問三	41.8%	48.1%	若者が「未熟な者に見える」理由	
	問四	82.4%	91.7%	「むかしのよなガラスを使っていない」という表現から読み取れることは何か	
	問五	13.0%	21.2%	空欄へ適語の補充、マッカーサーは戦時下の日本人を弁護している	
	問六	59.1%	69.5%	空欄へ適切な表現を補充、若者は斬新な発想に基づいて物事に挑戦することができる	
	問七(1)	75.9%	88.3%	【思考力】本文の内容を踏まえていない発言者を指摘	
	問七(2)	3.9%	6.3%	【思考力】複数の資料を読み、本文の要旨を捉える	
三	問一	96.6%	97.6%	「気持ちが届ぐ」という語句の本文中の意味を選ぶ	<p>多少の無理はしてもこの学校の書道部で頑張りたい主人公と、彼女の体力的な負担を心配する先輩の話。</p> <p>【問六】「はい……」は、先輩の話を聞いていてもその真意がつかめていない主人公の様子を表現していることを理解したい。</p>
	問二	60.3%	67.9%	空欄へ適語の補充、友達に誘われて「何となく」陸上部に入ってしまった	
	問三	82.4%	87.6%	「きらきらした笑い声」という比喩の意味	

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
三	問四	85.3%	92.4%	経緯と心情の把握、なぜ「ガッツポーズ」をしたか	【問九】「青臭い反抗心みたいなもん」という言い回しに含まれる自嘲的なニュアンスをくみ取りたい。
	問五	54.6%	63.4%	心情把握、鶴先輩の「そっか……」のとき	
	問六	59.5%	71.7%	心情把握、真歩の「はい……」のとき	
	問七	68.6%	74.8%	「折れた筆じゃもう書けない」という描写の意味すること	
	問八	72.2%	82.7%	「口調がしっとりしている」という描写の意味すること	
	問九	36.2%	47.1%	「青臭い反抗心」という心情の理由	
	問十	40.2%	46.7%	「何だかヒリヒリした」という表現の理由	

◆2024年度 中学入試 第1回【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	91.2%	93.1%	整数、小数、分数の四則混合算が出来るか。逆算が出来るか。分配法則を利用し計算の工夫が出来るか。	例年通り、全体的に正答率はとても高かった。
	(2)	97.2%	98.6%		
	(3)	91.2%	95.5%		
	(4)	96.0%	97.6%		
2	(1)①	87.6%	91.0%	濃度、利益、速さ、年齢、割合、図形の対称性について基本事項を理解し、それらの知識を正しく活用できるか。	(2)以降の問題で合否の差が出た。特に「損益算」「年齢算」の問題で顕著な差が見られた。本校ではよく出題される問題形式なので、過去問演習にしっかりと取り組む必要がある。
	(1)②	87.8%	93.8%		
	(2)①	93.5%	97.9%		
	(2)②	52.1%	65.5%		
	(3)①	67.9%	83.8%		
	(3)②	58.5%	76.6%		
	(4)①	77.4%	93.8%		
	(4)②	63.2%	83.1%		
	(5)①	83.9%	95.9%		
	(5)②	68.9%	83.8%		
	(6)①	78.4%	90.3%		
	(6)②	58.9%	77.6%		
3	(1)	74.6%	91.7%	台形の周りの長さ、面積に関する応用題が解けるか。	全体的に合否の差が大きく出た問題。特に、合格者の(1)の正答率はとても高い。
	(2)	40.2%	59.7%		
4	(1)	22.9%	39.7%	集合、割合に関する応用題が解けるか。	(2)で合否の差が特に出た問題であり、大問3以降の問題の中で全体的に正答率が低かった問題。
	(2)	34.7%	57.2%		
5	(1)	88.1%	97.6%	平面図、立面図から立体図形を捉え、表面積や体積を考察できるか。	(1)の正答率がとても高い問題。(2)(3)は合格者でも苦戦したと思われるが、合否の差がしっかりと出た問題となった。
	(2)	32.4%	49.3%		
	(3)	28.0%	48.3%		
6	(1)	65.0%	89.7%	ニュートン算が解けるか。グラフから水位変化の様子を体積も考慮した上で考察できるか。	全体的に合否の差が大きく出た問題。特に、合格者の(1)の正答率はとても高い。
	(2)①	49.1%	73.8%		
	(2)②	29.3%	47.6%		

◆2024年度 中学入試 第2回【国語】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	59.8%	70.4%	【漢字】小学校までの既習漢字を、難易度に段階をつけて問う。	小学校までの既習漢字を、難易度に段階を付けて出題。③「慣例にしたがう」が受験者全体でこちらの予想よりも書けなかったのは意外。①「名画を複製する」、⑥「一家の支柱を失う」が合否を分ける問いとなった。
	②	82.4%	89.2%		
	③	22.1%	36.9%		
	④	77.6%	82.2%		
	⑤	95.5%	98.5%		
	⑥	78.3%	89.3%		
	⑦	83.6%	89.2%		
	⑧	86.9%	89.1%		
二	問一	86.9%	90.6%	【選択】本文から派生した資料の読み取りの問題。それぞれの数値を見て、正しくグラフを読み取ることが出来るかが重要。	SNSを利用した人間関係の構築の若者の例を挙げ、物事の「正しい」を定義づけている思考に関して述べている文章を出題した。どの設問においても、傍線部や本文の内容に対して、表面的な意味にとらわれず、筆者が言いたいことを読み取ることが出来たかが得点の差につながった。 【問二】筆者が考える「端末ばかり見て疲れる」原因は何かを答える問題。「疲れる＝物理的な負担」という思考に流されてしまった受験生が一定数おり、傍線部の後の内容もきちんと読み取ったかで合否に影響したと思われる。 【問四】記述の問題は満点解答が約6%、得点の半分以上が約26%であった。条件である「親友」という存在の定義について、現代の大学生の認識と筆者および一般的な認識に差異があることを比較して解答してほしかったが、大学生の視点のみしか書かれない解答が多数あった。本文中の言葉をつなぎ合わせて書くだけではなく、必要な要素は何かを吟味して解答を作ることが重要である。 【問五(2)】ここまでの文章からわかるSNSに対する筆者の考え方に関する設問。アに引っ張られた受験生が25%ほどいたが、「真に相手を理解することができなくなってしまふ」とは筆者は言い切っていないことに気付いてほしいとこであった。
	問二	64.4%	74.9%	【選択】何に対して「疲れる」のかを文章から読み取る問題。	
	問三	70.8%	84.7%	【選択】指示語を読み解く問題。直前の内容を把握していれば大して難しくない。この問題によって本文をきちんと把握することにより、後半の本文の内容、設問が理解できるようになる。	
	問四	34.2%	39.7%	【論述】人間関係を「親友」という例を用いて紐解く。筆者の考える「親友」と現在の大学生が考える「親友」という存在の相違点を比較して述べる事が重要。	
	問五(1)	90.4%	95.1%	【選択】指示語が指し示す内容を文章中から読み取る問題。直前で書かれている内容をまとめて理解できるかが重要。	
	問五(2)	56.8%	67.0%	【選択】本文の中で、筆者が考えるSNSの負の側面を適切に読み取ることが出来るかを問う問題。	
	問六	87.8%	94.6%	【選択】本文の中で述べられている「正しい」が主観的であることを把握した上で、「正しい」という考えが引き起こす問題を読み取る問題。	

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
	問七(1)	94.9%	99.0%	【選択】提示された文章の内容の理解を問う問題。視点を変えて物事を捉え直すことの重要性を説いていること理解し、(2)を解く上での事前情報としてほしい。	
	問七(2)	82.3%	85.7%	【選択】身近な童話を題材に、(1)で理解した物事を別視点から捉え直す思考力を試す問題。生徒たちの発言は難しくはないが、それぞれの童話をそれぞれ考え直して理解できるかが分かれ目となる。	
三	問一 A	40.3%	52.2%	【選択】本文中の表現の意味を問う語彙問題。	<p>年長者ぶるいとこを陰で笑っていた少年たちが、ふとした出来事からそれを暴かれ、気まずい雰囲気の中で自分たちの本心を知る場面から出題。それぞれの立場と内心を適切に読み取っていく必要がある。結果として、以下の難易度の低い問いが合否の分かれ目となった。</p> <p>【問一 A】「(自分は)おめでたい(やつだった)」の意味を問うた。ア「縁起がよい」を明確なひっかけとして置いたが、受験者の半数以上が飛びついてしまった。</p> <p>【問二】想像の域を出ない選択肢(ア・ウ)に飛びついてしまった受験生が7分の1ほどいた。図らずも最初に分かれ目となった問い。登場人物の気持ちを自分基準で想像してはいけない。</p> <p>【問七(2)】ア「自分の気持ちさえわかっていなかった」、ウ「章の内心を想像できていなかった」といった本文と合致しない要素を、受験生の半数弱が見逃した。細かく読ませようとした狙いのとおりになったかたち。</p>
	問一 B	91.7%	93.1%		
	問二	81.2%	92.1%	【選択】主人公「僕」と同じ立場にある友人「ナス」の言動の理由を問う問題。リード文で説明されている人間関係を把握していれば簡単。	
	問三	65.6%	70.0%	【選択】第三者的な立場にある人物「じゃがまる」の言動の背景を問う問題。表情に複数の理由が読み取れるので、不適切な説明を選ぶ形式にしてある。	
	問四	63.9%	69.0%	【選択】主人公と対立する立場にある人物「章くん」の発言の背景を問う問題。大人ぶろうとして出た皮肉が読み取れることが重要。	
	問五	20.2%	26.1%	【論述】主人公たちが自分の本心に気付いたことを説明する問題。表面的な言動と本心の両方をしっかり書くことが重要。	
	問六	80.6%	83.7%	【選択】各所の情景描写を問う問題。	
	問七(1)	89.6%	92.6%	【選択】人物関係を、連想されている童話「裸の王様」の登場人物に重ねて問う問題。主人公たちが「家来」でもあり「詐欺師」でもあるという点が重要。	
	問七(2)	51.0%	64.4%	【選択】出来事を思い返した主人公が、対立していた相手の気持ちを想像していることを意味する記述について確認する問題。回想であるという点が重要。	

◆2024年度 中学入試 第2回【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	93.5%	97.5%	整数・少数・分数を使った四則計算や、計算の工夫を利用する問題を出題。基本的な計算を正確にできるかどうかをねらいとしている。	例年通り、全体的に正答率はとても高かった。
	(2)	81.7%	89.7%		
	(3)	82.4%	88.7%		
	(4)	84.1%	92.6%		
2	(1)①	81.1%	86.2%	割合の問題や、特殊算、平面図形などの小問集合。問題文から条件を読み取り、面積図などを使って基本的な計算ができるかどうかをねらいとしている。	「整数」「植木算」「割合」の問題で合否の差が出た。 特に「植木算」の問題は想定よりも多くの生徒が解けていませんでした。
	(1)②	57.9%	72.9%		
	(2)①	87.1%	95.1%		
	(2)②	64.4%	78.3%		
	(3)①	95.5%	98.5%		
	(3)②	82.4%	90.1%		
	(4)①	18.3%	33.0%		
	(4)②	40.0%	60.1%		
	(5)①	39.5%	63.1%		
	(5)②	41.5%	68.5%		
	(6)①	87.5%	96.1%		
	(6)②	84.7%	95.1%		
3	(1)	89.5%	93.6%	規則性に気づき、帰納的に考察できるかをねらいとしている。	(3)で合否の差が特に出た問題。 とはいえ、合格者の正答率が高い。
	(2)	90.1%	97.5%		
	(3)	64.8%	80.8%		
4	(1)	95.9%	100.0%	・長方形の縦と横の長さの比と面積が与えられているときに縦の長さを求めることができるか。 ・正方形の面積と正方形の対角線の長さとの関係がわかっているか。	(2)で合否の差が特に出た問題。 大問3と同様に(2)の合格者の正答率が高い。
	(2)	53.2%	77.3%		
5	(1)	80.2%	92.6%	受験者の解答と点数から、複数のデータを比較することで、条件に合う答えを見つけることができるかをねらいとしている。	(1)の正答率がとても高い問題。 (2)は正答率が低く、複雑な条件を整理しきれなかった受験生が多かった。
	(2)	12.5%	27.1%		
6	(1)	86.2%	96.1%	割合に関するグラフを読み取る問題。 (1)(2)は素直にグラフを読み取ればよいが、(3)は条件が変わるので、状況を正確に読み取り計算ができるか。	本校ではよく出題される問題形式なので、正答率が高かったが、時間配分の関係が最後まで解ききれなかった受験生も多くいたようである。
	(2)	74.6%	91.6%		
	(3)	10.7%	23.2%		

◆2024年度 中学入試 第2回【理科】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	1(1)	47.8%	60.1%	前半はプレートの動きからおこる地震のしくみや火山、断層について、後半は太陽と月の位置関係について問われている。プレートテクトニクスや日食は、ニュースにもよく取り上げられる題材であり、教科書に記載もあるので、日頃から科学現象について興味・関心を持ち、基本的な知識を有しているかがポイントになる。	月と太陽の位置関係の図は多くの受験生が読み取れていたといえるが、(5)②の正答率があまり高くなかった。地震や火山は全体的に正答率が低くなっている。特に(1)(3)は教科書をすみずみまでよく読み、理解を深めた。
	1(2)	54.1%	61.1%		
	1(3)	60.9%	67.5%		
	1(4)	87.2%	90.1%		
	2(5)①満月	98.5%	99.5%		
	2(5)①三日月	89.0%	93.6%		
	2(5)②	71.6%	79.8%		
	2(6)①	92.5%	98.0%		
	2(6)②	86.2%	93.6%		
	2(7)①金環日食	86.3%	94.1%		
	2(7)①部分日食	86.8%	93.1%		
	2(7)②	87.2%	92.1%		
2	1(1)	95.2%	96.6%	物質が液体に溶け、その液体から固体が析出する現象をテーマにした。前半は金属の性質およびその量的関係を問う、後半は気体・水溶液の性質および読解問題を出題した。一般的な知識を問う問題に加えて、表を読み取って判断・推測する力を図る問題や、既存の知識からでは解答できない事項を文章を読み取り、解釈する力を図る問題になっている。	(2)のような基礎的な知識を問う問題の正答率が低く、差が開いた問題であったと見受けられる。正しい知識を身につけることが重要になる。(3)は基礎的な(4)~(5)は標準的な(6)は難易度の高い計算問題であり、得意としている受験生はアドバンテージが取れた問題となった。(9)(10)は文章を読み解くのに苦戦している受験生が多く、正答率は大きく下がった。
	1(2)①	55.0%	66.8%		
	1(2)②	36.5%	37.1%		
	1(3)	91.3%	97.0%		
	1(4)	81.4%	94.1%		
	1(5)	72.9%	89.2%		
	1(6)	23.9%	32.0%		
	2(7)	89.2%	95.1%		
	2(8)	70.2%	79.3%		
	2(9)	28.7%	39.4%		
	2(10)	52.9%	53.5%		
3	(1)	88.6%	92.1%	実験によりデータを調べるときの方法がわかっているか、与えられた実験結果から運動の特性を見出せるか、グラフの形はどのようなか、数値計算ができるか、実験条件を変えた時に運動のようすを推論することができるかをふりこをテーマとして、様々な視点から知識や計算力、考える力を問う問題になっている。	(1)(2)は基礎的な内容であり正答率は非常に高くなった。(4)はどのデータを用いてグラフの値とするのかを見極める力が必要なため、正答率は低くなった。(5)は問題文からおもりの動きのイメージができるかどうかで正答率に差が生じたものと考えられる。(6)は計算力と完璧しなければ正解とならないため、正答率は低くなった。(7)(8)も計算問題だが一つの値を求める問題であったため、いかに正確に計算ができるかで差が生じた問題だった。(10)は、(4)と連動する問題であったこともあり、正答率は非常に低くなった。
	(2)	97.6%	98.5%		
	(3)	70.1%	76.8%		
	(4)	28.9%	39.9%		
	(5)	67.7%	83.3%		
	(6)	23.8%	39.9%		
	(7)	50.1%	73.4%		
	(8)	39.4%	62.6%		
	(9)	80.3%	88.1%		
	(10)	40.3%	50.2%		

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
4	(1)①	97.0%	99.0%	一般的な知識を問う問題に加えて、既存の知識や過去の経験からでは解答できない事項を文中から読み取り、解答するといった、文章を読んでその内容を理解し、解釈する力を図る問題になっている。	(1)のような知識問題は正答率が90%以上であり、非常に良く覚えてきているのが見受けられた。(2)以降は長文を読み解き、理解が必要な問題であり、正答率は大きく下がった。(3)は設問の文章に「最も簡単な実験」とある。ここまで読むと、解答は5ではなく3であることがわかる。また、(5)は確率の問題となっており、文章を読んで理解した上で、どのような値になるか考えなければならない。ア～オまで全て正確に値を出す必要がある。その上で(6)で問われた本質を理解できたかどうかが重要となる。
	(1)②	92.6%	95.1%		
	(1)③	97.6%	99.0%		
	(1)④	98.2%	100.0%		
	(2)	81.5%	89.7%		
	(3)	31.9%	40.9%		
	(4)	55.9%	66.8%		
	(5)	7.7%	8.1%		
	(6)	43.3%	49.5%		

◆2024年度 中学入試 第2回【社会】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	問1(1)	75.5%	87.3%	全体を通して、地理に関する基礎的知識・技能、資料の読み取り、地理的事象の背景や関連性を問う内容とし、自然環境、県の位置、産業、人口、環境問題、自然災害などを幅広く出題した。資料の読み取りについては学習してきた知識と資料とを関連づけて考えられるか、また、地理的事象の背景・関連性について問う問題では文や資料を適切に読み取れるかを意図して作問した。	問1(1)(2)・問2(1)のような基礎的な地理的技能に関する問題はよくできていた。また、学習した知識と資料を結びつける問題の中でも問6はよくできていた。一方で、問2(2)・問7のように合格者でも正答率の低い問題があった。問2(2)については、資料中の異常な数値に疑問を持たせたかがポイントであった。問7については、文と図を照らし合わせて正確に読み取る必要があった。全体の正答率が作問者の期待値に届かなかった問題として、問2(3)・問5を挙げておきたい。問2(3)は受験生にとっては初見の資料であっても問題文を正確に読み、そこから解答のヒントを読み取る必要があった。正確に読み取ることができれば、解答は容易だったはずである。問5については、3つの指標から判断することが難しかったのかもしれないが、学習してきた知識を一つひとつ照らし合わせながら正解を導き出してほしかった。
	問1(2)	72.9%	85.8%		
	問1(3)	50.4%	62.7%		
	問2(1)	92.3%	96.1%		
	問2(2)	7.7%	12.3%		
	問2(3)イ	50.4%	62.3%		
	問2(3)エ	52.3%	62.3%		
	問2(4)	65.4%	75.5%		
	問3ア	38.2%	57.4%		
	問3イ	42.3%	65.2%		
	問4	85.9%	92.6%		
	問5中国	36.7%	45.1%		
	問5日本	23.2%	32.4%		
	問6	83.9%	95.6%		
問7	19.7%	26.6%			
2	問1(1)	78.9%	82.4%	人と人との関係や支配のあり方、そうした関係の移り変わりなどに関する問題を通じて、①小学校で学習する歴史の基本的な知識を習得しているか、②歴史の大きな流れを理解しているか、③絵画・図版や文字などの各種史料を含め、問題全体に粘り強く向き合い、適切に読み解くことができるかどうか、を問うた。とくに③の点について、例えば昨年度入学試験の問題と受験生の解答例を通じて、史料に正しく向き合うこと、史料に粘り強く向き合うことによって適切な解釈を導き出すことができることを示した。例年、多くの受験生は①の点についての学習は一定程度の水準に到達していると思われ、また②の点については意識的に学習している受験生が多いものと推察している。しかし③の点については、過去の入学試験でも取り組みに課題が見られた。このため、問題全体に粘り強く向き合う学習に日ごろから意識的に取り組んでいたかどうかについて、入試問題のねらいとして設	歴史的分野については、設問ごとの正答率や各設問の正答者と社会の総得点の推移などのデータを見ると、多くの受験生がきちんと対策して臨んでいる様子が見えた。このことは逆に言えば、歴史的分野の対策が不十分な場合、合格に達することが難しいということである。出題のねらいにもあるように、まずは、①小学校で学習する歴史の基本的な知識を習得しているか、②歴史の大きな流れを理解しているか、②点をきちんと押さえるとともに、日頃の学習で③絵画・図版や文字などの各種資料を含め、問題全体に粘り強く向き合い、適切に読み解くことができるかどうか、に意識的に取り組む学習を心掛けてほしい。なお、社会の総得点の高かった受験生に正答者が多く、総得点の低かった受験生に正答者が少なかった問題は、問4(2)と問6(4)である。また、全体の正答率は低いものの、社会の総得点の高かった受験生に正答者が多かった問題が問5(2)である。いずれも、①と②の点とともに、
	問1(2)	79.1%	82.4%		
	問2(1)	65.4%	68.6%		
	問2(2)	84.4%	89.7%		
	問3(1)	65.1%	77.9%		
	問3(2)	88.9%	98.0%		
	問3(3)	76.8%	79.9%		
	問3(4)	76.5%	89.2%		
	問4(1)	66.6%	73.8%		
	問4(2)	50.2%	63.7%		
	問4(3)	83.3%	93.1%		

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
	問4(4)	81.1%	92.2%	定した。	丁寧な読み取りを必要とする③の要素が含まれた設問であったことに留意しなければならない。これらの問題に正答できるようにする学習が、結果的に社会の総得点を高くする学習につながっていることを理解して、日頃の学習に臨んでほしい。
	問5(1)	84.7%	91.7%		
	問5(2)	38.3%	53.4%		
	問5(3)	68.6%	87.3%		
	問5(4)	82.0%	89.7%		
	問6(1)	82.3%	94.1%		
	問6(2)	63.8%	73.9%		
	問6(3)	82.6%	94.6%		
	問6(4)	42.7%	54.2%		
3	問1	49.2%	73.5%	2023年上半期にあったニュースを題材に出題した。	多くの受験生が国家予算の歳出項目や基本的人権など本校が例年出題している分野の理解は出来ていた。しかし、問6のように天皇の国事行為を問う問題のような基本的なものであっても選択肢に「すべて正しい場合には5」というものがあると自信が揺らぎ正答率の低下を招いていると思われる。あやふやな理解ではなく、しっかりとした基礎知識の理解・定着が求められる。また、問3などのようにリード文中にヒントが隠されている問題については、合格者はやはりリード文を丁寧に読んで解答していることが窺える結果となった。問5、問7については問われているのは基礎的知識だが、問われ方に一捻りがある問題であり、こちらも合否に影響が出た問題であったと思われる。
	問2	62.0%	78.9%	問4・問6・問8は、一般的な知識として知っておいてほしい内容である。	
	問3	32.2%	36.8%	問1・問3・問10等は解答を導き出すためにやや手間を要するが、粘り強く解く姿勢を有しているかを確認した。問1は正確な知識の確認を求めるものであり、問3・問10は時事的話題を「点」で捉えるのではなく、時系列で把握できているかを確認した。	
	問4	89.3%	95.6%	問2は中央省庁の区別が正確にできているかを確認した。	
	問5	52.0%	68.6%	問5は基礎的な知識に簡単な計算要素を足し、問われていることを正確に把握できているかを確認した。	
	問6	32.9%	46.8%	問7は基本的な選挙制度の特徴を把握しつつ、実社会での出来事との関連性が見いだしているかを確認した。	
	問7	24.1%	25.5%		
	問8	73.7%	81.7%		
	問9	63.5%	80.7%		
	問10	26.2%	25.6%		

◆2024年度 中学入試 第3回【国語】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
一	①	86.7%	97.3%	漢字の書き取り問題を通して、基本的な学習態度、語彙力を問う。	小学校までの既習漢字を、難易度に段階を付けて出題。⑧「耕す」が、受験者全体でこちらの予想よりも書けたのは意外。③「俳優が主演をつとめる」、⑦「節操のない行動」が合否を分ける問いとなった。
	②	87.5%	89.2%		
	③	73.7%	86.5%		
	④	84.7%	97.3%		
	⑤	90.1%	97.3%		
	⑥	93.2%	100.0%		
	⑦	13.6%	32.4%		
	⑧	88.7%	91.9%		
二	問一①	76.5%	86.5%	前後の文脈の関係を把握することができる。	<p>道徳教育論をあつかうことの困難について述べている文章を出題した。受験者の得点率は大問三と比べるとかなり低く、そもそも読み取りが追いついていない受験生が数多くいたことが想像される。具体と抽象の往復を正しく出来たかどうか得点の差につながった。</p> <p>【問二(2)】「相対的」の対義語を答える問題。基本的な語句問題であるものの、得点差に大きく影響を与える問題の一つであった。</p> <p>【問六】正解選択肢には本文中の言葉がそのまま抜け漏れなく用いられていたわけではない。表面的な意味にとらわれず、筆者が言いたいことを読み取ることが出来たかどうかを正否を分けた。</p> <p>【問七】大問二において、受験者と合格者で平均得点率に最も差がついた問題である。読み取りが追いついていない受験生は、正答である「イ」の明確な誤りに気づけず、あたりさわりのないことを述べている「ウ」「エ」を選んだものと思われる。</p>
	問一②	91.8%	100.0%	前後の文脈の関係を把握することができる。	
	問一③	76.2%	94.6%	前後の文脈の関係を把握することができる。	
	問一④	73.7%	89.2%	前後の文脈の関係を把握することができる。	
	問一⑤	83.3%	91.9%	前後の文脈の関係や、全体の文脈の関係を正確に把握することができる。	
	問二(1)	53.5%	56.8%	本文中での語句の意味を判別することができる。	
	問二(2)	67.7%	83.8%	本文中での語句の意味を判別することができる。	
問三	67.4%	89.2%	本文の内容を正確に読み取ることができる。		

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
	問四	32.6%	40.5%	本文の内容を抜け漏れなく読み取ることができる。	
	問五	18.9%	32.0%	本文の内容を正確に読み取ることができると同時に、表現に注意して正確に記述することができる。	
	問六	20.7%	37.8%	本文の内容を正確に読み取ることができる。	
	問七	33.1%	56.8%	生徒間の会話を通じて、客観的に事実を捉えることができる。	
三	問一Ⅰ	92.6%	100.0%	本文中での語句の意味を判別できる。	<p>的確な言葉を紡ぐことが苦手な少年と、その少年の子育てに時間を十分に割けない母がトラブルに直面する場面から出題した。受験者の得点率は大問二と比べるとかなり高く、全体的に易しい問題だったといえる。問五から問七(ii)の問題後半を乗り切れたかどうか合否に強い影響を与えた。</p> <p>【問五】登場人物の心情記述である。登場人物の①これまでの背景、②現在置かれている状況、③それを踏まえての心情、と含むべき要素が多く、得点差に大きく影響を与える問題の一つであった。</p> <p>【問六】読み取りが難しいであろう箇所からの出題。とはいえ、不正解選択肢には大きく外れる文言を入れたためか正解率は非常に高かった。</p> <p>【問七(1)】本文中の表現に丁寧に注目できているかどうかを問うた。漢字一字の書き抜きだが、得点差に大きく影響を与える問題の一つとなった。</p>
	問一Ⅱ	90.9%	97.3%	本文中での語句の意味を判別できる。	
	問二	95.5%	97.3%	主人公の外的な様子の変化を、周囲の様子から判別することができる。	
	問三	88.1%	94.6%	母親の行動の理由を、これまでの経緯と心情の変化から判別することができる。	
	問四	77.1%	78.4%	文也の母親の行動として適切なものを文脈から判別できる。	
	問五	36.0%	53.3%	心情のみならず、登場人物の背景も踏まえながら記述することができる。	
	問六	82.7%	91.9%	場面の把握と主人公の心情の把握をした上で、正解を判別できる。	
	問七(1)	47.6%	63.9%	物語を俯瞰的に捉えることができる。	
問七(2)	67.1%	78.4%	生徒間の会話を通じて、客観的に事実を捉えることができる。		

◆2024年度 中学入試 第3回【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	94.1%	94.6%	整数,小数,分数の四則演算および計算の工夫, 逆算ができること。	例年通り、全体的に正答率はとても高かった。
	(2)	80.7%	91.9%		
	(3)	89.2%	97.3%		
	(4)	91.2%	100.0%		
2	(1)①	95.5%	97.3%	損益, 濃度, 仕事, 平面図形の角度, 空間図形の計量, 距離と速さの関係等を理解し具体的に数量を計算すること。	「損益算」「平面図形」の問題で合否の差が出た。 全体的には、小問ごとにある①②の問題において、②まで解ききれるかどうかで合否の差が顕著に出る結果であった。
	(1)②	27.8%	48.6%		
	(2)①	73.4%	97.3%		
	(2)②	68.3%	97.3%		
	(3)①	94.6%	97.3%		
	(3)②	53.3%	75.7%		
	(4)①	51.3%	83.8%		
	(4)②	39.4%	75.7%		
	(5)①	86.4%	97.3%		
	(5)②	49.0%	62.2%		
	(6)①	72.5%	86.5%		
(6)②	27.8%	67.6%			
3	(1)	89.2%	100.0%	拡大縮小の関係から線分の長さの比, 三角形の面積の比を求めること。	(2)で合否の差が特に出た問題。 三角形と台形の面積の比を求められるかどうかで差がついた問題であったと思われる。
	(2)	43.1%	78.4%		
4	(1)	65.2%	94.6%	規則性に注目してテープの長さ, 枚数からその他の量を求めること。	規則性を見い出せるかどうか, 図を活用できたかどうかで正答率に大きな差が出たと思われる問題。
	(2)	25.8%	51.4%		
5	(1)	46.2%	75.7%	問題文とグラフから水の入る様子を読み取り, 種々の量を求めること。	本校ではよく出題される問題形式なので, 過去問演習にしっかりと取り組む必要がある。
	(2)	20.1%	54.1%		
	(3)	10.8%	43.2%		
6	(1)①	83.6%	97.3%	ルールを理解して, 下一桁の数からそれ以前の数の組み合わせを考えること。	(1)の正答率がとても高い問題。 (2)(3)は正答率が低く, 複雑な条件を整理できなかった受験生が多かったように思われる。
	(1)②	73.1%	89.2%		
	(2)	5.7%	16.2%		
	(3)	9.3%	18.9%		

◆2024年度 中学入試 第3回【理科】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	98.3%	97.3%	地殻変動により、現在の日本ができてい ることを理解しているかなど基礎的な 問題から、金属やエネルギーなど幅 広く、深い知識まで盛り込んでいる。	地層に関する問題や星座を問う一般 的な問題は皆、よくできていました。 大きく正答率が下がった問題は、総 合的な力を問う問題です。特に坑道 内で排気ガスを出すエネルギーは使 用が難しいことや、排水をするため のアルキメデスポンプの構造を観察 して、機能を想像するなど、思考力 を問う問題の正答率が低かった。
	(2)	34.8%	35.1%		
	(3)	92.9%	97.3%		
	(4)	16.4%	13.5%		
	(5)	81.3%	89.2%		
	(6)	86.4%	89.2%		
	(7)	22.4%	35.1%		
	(8)	19.5%	27.0%		
	(9)	60.9%	70.3%		
	(10)	85.6%	94.6%		
	(11)	3.7%	2.7%		
2	(1)	97.7%	100.0%	水溶液の性質について出題した。基 本的な知識を問う問題ではあるが、 表を用いることにより、思考力を 問う問題とした。計算問題について も、データがきちんと読み取れない と解答できない問題とした。	表を用いてパズルを解く要領で解答 しないと正解しない出題形式であ ったが、多くの受験生がよくできて いた。問5の計算問題はこちらの意 図通り、苦戦している受験生が多 かった。
	(2)	96.0%	100.0%		
	(3)A	93.2%	100.0%		
	(3)B	93.2%	100.0%		
	(3)C	94.1%	100.0%		
	(3)D	94.1%	100.0%		
	(3)E	93.5%	100.0%		
	(4)a	93.2%	100.0%		
	(4)b	89.5%	100.0%		
	(4)c	92.4%	100.0%		
	(4)d	87.8%	100.0%		
	(4)e	92.6%	100.0%		
	(5)	47.6%	62.2%		
3	(1)	76.5%	89.2%	てこを用いた道具について出題した。 道具への応用と類推は教科書で紹介 されているので、既知のことを出発 点としつつ、これをモデル化して実 際に数値を求めてみる問題とした。	各要素をみれば基本的な問題である が、問題文に書かれている状況を 的確に理解し、知っている情報とい かに組み合わせるかが求められる。 そのため、しっかり理解できている 受験生は問題なく得点してきた。し かし、特に問6からの組み合わせ てこの計算問題は解くにあたっての 道筋を立てることも大切であり、如 実に点差に表れた。
	(2)	80.7%	97.3%		
	(3)	66.0%	89.2%		
	(4)	85.6%	97.3%		
	(5)	40.2%	70.3%		
	(6)	61.8%	89.2%		
	(7)	53.8%	75.7%		
	(8)	21.5%	62.2%		

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
4	(1)	99.2%	100.0%	地球環境の変化と植物の関係について出題した。	それぞれの單元ごとには難しい問題ではないが、事象の関係性や考察などを問題文やグラフから読みとるものであった。 最後の問題は、文章とグラフ両方から考察するものであったため、正答率が低くなったと考えられる。
	(2)	65.2%	89.2%		
	(3)あ	85.3%	86.5%		
	(3)い	92.9%	100.0%		
	(4)	82.7%	94.6%		
	(5)	95.8%	100.0%		
	(6)	70.0%	78.4%		
	(7)う	88.7%	100.0%		
	(7)え	81.6%	94.6%		
	(8)	62.6%	73.0%		

◆2024年度 中学入試 第3回【社会】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	問1	21.0%	36.6%	<p>例年通り、持っている知識と与えられた資料からわかることを組み合わせて思考作業を必要とする問題を中心に構成している。問8(1)のように毎年出題されている日本の自然環境に関する問題は過去問に取り組んで来る受験生にとって得点しやすいはずである。問1の「昼夜間人口比率」は本校入試において頻繁に出題されている内容である。都市の特徴に関する説明から「ニュータウン」、「ターミナル駅」、「鉄道の開通」などのキーワードから東京都における立地を推測することが必要である。問3は本文中の言葉をヒントとして論理的に整理して記述する問題である。「自動車の普及」→「バス乗客数の減少」→「採算が取れずに本数が減少する」というように、普段から問題の背景やそれがもたらす効果について整理する習慣を付けておくことが必要である。問4は持っている知識や表から「時間距離」の短縮に大きな影響を与えた出来事を抽出し、その出来事が日本地図ではどの地域に反映されているのかを推測する問題である。問7で扱われている「自然災害伝承碑」に関連する問題はこれまでも何度か出題した。どのような場所でどのようなリスクがあるのかについて、関東地方の地形の様子や災害の特徴から推測してもらいたい。また、問9のような問題については、日本と関わりの深い国について、貿易や産業など様々な分野から総合的に判断できるかを問うている。</p>	<p>毎年主題されている雨温図に関する問題の正答率は高く、特に問8(1)全5問については、合格者の正答率はほとんどが90%を超えていたため、失点したくないところである。問2(2)、問4のように問題文中に与えられた図表を用いてその場で正誤や年代順を判断する問題は、上位合格者ほど正答率が高いため、持っている知識と与えられた条件を冷静に判断することができたかどうか得点に現れたといえよう。それとは対照的に、問8(2)のような隣り合う都府県に関する問題は知識問題として定番であるが、全体としての正答率は50%を超えなかった。全体的に思考力を問う問題が多いが、普段から地図を見る機会が多ければ容易に解答できる問題であるといえる。一方、問10は全体的に正答率が低い問題であった。各場所の空間的特徴とグラフ中の数値を結び付ける作業が必要だが、空港としてどのような機能を果たしているのか、について位置的特徴や外国との結びつきを組み合わせ判断する必要があった。</p>
	問2(1)	66.9%	85.4%		
	問2(2)	59.2%	75.6%		
	問3	25.8%	34.1%		
	問4	44.2%	65.9%		
	問5	50.1%	75.6%		
	問6	54.7%	58.5%		
	問7	49.3%	56.1%		
	問8(1)ア	81.6%	87.8%		
	問8(1)イ	82.7%	90.2%		
	問8(1)ウ	82.4%	92.7%		
	問8(1)エ	74.2%	92.7%		
	問8(1)オ	83.0%	92.7%		
	問8(2)	48.2%	61.0%		
	問9	52.1%	61.0%		
	問10千葉	44.2%	56.1%		
問10愛知	27.2%	43.9%			
問11	71.4%	82.9%			
2	問1	85.0%	92.7%	<p>神奈川県に関する歴史をテーマに原始時代から現代まで幅広く出題した。受験生の基本的な歴史の知識が身につけているかを確認するとともに、次の2点を測れるよう意識して作問した。1つ目は、受験生が歴史的語句や出来事を丸暗記ではなく、それらの意味や前後のつながりを理解できているか。2つ目は、リード文や提示された資料と今まで勉強してきた知識を組み合わせ、自分で考え判断する力があるかである。知識を論理的に整理して身に付け、それらを引き出して思考・判断できるかがポイントである。</p>	<p>文章に関する基本的な歴史用語を答える問題の正答率は高く、基本的な用語の学習を多くの受験生がしっかりとしている印象を受けた。しかし、同じような基本的な用語である「環濠(かんごう)集落」を、資料に基づいて導き出す問3は正答率が低かった。環濠集落自体を知っている受験生は多くいたと思うが、与えられた資料と文章中の文脈から正確に知識を引き出せたかが、差を生んだと考えられる。</p> <p>並び替えに関する問題の正答率は伸び悩んだ。出来事と出来事の因果関係や背景を順序だてて理解し、知識を構成していく力をつけていけば、整序問題だけでなく正誤問題の正答率も上がり、他の受験生との差をつけることが出来るだろう。</p>
	問2	91.8%	95.1%		
	問3	20.7%	31.7%		
	問4	77.9%	90.2%		
	問5	83.0%	92.7%		
	問6	85.3%	95.1%		
	問7	35.1%	63.4%		
	問8	37.7%	56.1%		
	問9	56.1%	58.5%		
	問10	61.2%	65.9%		
	問11	32.0%	29.3%		

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
	問12	42.5%	46.3%		
	問13	66.0%	75.6%		
	問14	87.3%	87.8%		
	問15	78.5%	97.6%		
	問16	19.5%	29.3%		
	問17	81.6%	82.9%		
	問18	58.6%	61.0%		
	問19	85.8%	97.6%		
	問20	67.7%	75.6%		
3	問1	94.6%	100.0%	<p>「SDGs」を題材に、大問を通して公民的分野全般の基本的な知識を問う問題を出題した。</p> <p>問3の(2)については、内閣不信任決議案を可決してから、新たな内閣の成立までを細かく聞いているが、特別国会の意味を分かっていたら正答を導けるであろう。</p> <p>問7については、問題の文章をきちんと読んでいるか、読み取ったものを活用して自分で判断する力があるかを問うた。</p>	<p>多くの受験生は三権に関する基本的な知識は身に付けており、正答率が高かったが、内閣不信任決議案可決後の流れについては、細かいところと問うたため、差が出る結果となった。また、三権に関する問題に比べて、人権や地方自治に関する問題では正答率が下がることとなり、そこでも差が開いた。最後の横浜市の「SDGs」に関する問題に関しては、問題文を与えられたアイコンに当てはめていけばできる問題であったが、正答率が低くなった。受験生には、知識や文章から読み取ったものを活用する力を養って欲しい。</p>
	問2	65.4%	78.0%		
	問3(1)	78.2%	90.2%		
	問3(2)	22.1%	24.4%		
	問3(3)	78.2%	92.7%		
	問4(1)	91.5%	95.1%		
	問4(2)	33.1%	51.2%		
	問5	76.8%	75.6%		
	問6	31.2%	53.7%		
	問7	13.6%	17.1%		